



CONTENTS

- 1頁・新年のご挨拶・「平成」と共に歩み30周年！
 2頁・奈良県福祉・介護事業所認証制度の認証
 ・多文化交流会開催
 ・“人生会議”という言葉をご存じですか？
 3頁・笑顔満開の狂言披露！
 ・防犯講習で護身術
 4頁・エバーライフ香芝・エバーライフ加島
 ひまわり加島 厨房リニューアル！
 ・第12回 秋の作品展開催！

第121号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者：鉄村 信治

編集：ふれあいの里広報委員会

<http://www.fureai-net.com/>



医療法人健和会 理事長

鉄村 信治

謹賀
新年！

「平成」と共に歩み30周年！

皆様に感謝申し上げます。



新年明けましておめでとうございます。昨年は日本中で様々な災害が発生し、大変な一年となりましたが、本年は穏やかな年となることを祈念しております。

当グループは平成元年に設立され、まさに平成という時代と共に

歩み、本年で30周年を迎えることとなりました。開設時、私は大学2年生であり、当時の記憶がおぼろげではありますが残っております。今と違って、竹やぶの中にボツンと病院だけがあり、“こんな場所で病院がやっていたのか？”と思った次第です。その後、折に触れて病院を訪れることがありましたが、行く度に新しい施設ができており、当時、医療行政には全く疎かったため、よく分からなかったのですが、今にして思えば、やがて訪れる高齢社会を見越した計画であったと思います。このように関連施設の整備が進み、現在この「ふれあいの里」には、約950人の方が入院、入所されております。時代が流れ、今までどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えるにあたり、当グループの特徴である「医療と介護の一体的な運営（医療・介護複合体）」という方法は大変時代に合ったモデルであり、一定の評価をいただいております。

では、この複合体は我々のオリジナルであったかと言われると決してそうではなく、当時の厚生省が、「高齢者保健福祉推進10カ年戦略（ゴールドプラン）」という方針を作っており、そのプラン通りに整備してきた結果です。今さらながらこの「ゴールドプラン」のモデル図を見ると、昨今言われている「地域包括ケアシステム」の図と細かな違いはありますが概ね似通っており、厚生省の方々は40年程前から既に具体的な計画を持っていたと考えると驚くばかりです。

さて、この数年間で当院の機能は大きく変わりました。近年

は、従来の長期入院目的の病棟だけではなく、治療・リハビリを行い、自宅へ退院していただくという回復期の機能の充実を進めております。

また訪問診療や透析といった新しい取り組みも始まりました。

そして平成30年11月より、病棟の一部を「医療+介護+生活支援+住まい」の機能を持った「介護医療院」という新しいタイプの施設へ転換しました。この

介護医療院は病院の中にありますが、病棟ではなく住まいという位置づけになります。当グループでは県内で3番目の開設になり、他の医療関係者からも大変注目されており、より快適に暮らしていただける施設を目指し、創意工夫していきたいと考えております。

最後になりますが、これまで30年間色々大変なこともありましたが、地域の皆様方、医療・介護関係者の方々、そして何よりも日々の大変な業務を担っていただいているスタッフの皆様方に支えていただき、歩んでこれたことを改めて感謝申し上げます。

今後、40年、50年と地域の皆様方の医療、介護をお支えし、今まで以上に安心してご利用いただけるグループを目指し頑張っていく所存です。

今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

平成31年 元日



奈良東病院(外観)

健和会理念

私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

- 1・患者さん中心の医療・看護・介護
- 2・地域社会への貢献
- 3・研究心と向上心を持つ
- 4・和を尊ぶ

健和会基本方針

- 1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
- 2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
- 3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
- 4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

奈良県福祉・介護事業所認証制度において知事認証を受けました!

安心して働ける職場を目指して!



奈良県では福祉・介護の人材確保を図るため、「奈良県福祉・介護事業所認証制度」を運用しています。

この制度は、職員の人材育成や処遇向上等につながる6分野20項目の認証評価項目が設定されており、県が審査し、その基準をクリアした福祉・介護事業所を知事認証し、公表する制度です。

知事認証を受けた事業所の人材育成の取り組みや就労環境等を「見える化」することで、学生や求職者の方が県からの情報を基に安心して働くことのできる職場を探することができます。

また福祉・介護事業所におきましても、事業所の意識改革や職員の就労環境や処遇等の向上につながる等、求職者の方と事業所の双方にメリットのある制度となっています。

平成30年9月30日付でふれあいの里の施設群にある奈良東病院をはじめとする11施設が知事認証を受け、奈良県の

ホームページ「福祉・介護の仕事魅力情報なら」内で認証事業所として公表されています。(当施設群での認証事業所は下記に掲載)

現場で働く職員の労働環境の向上を図ることで、患者様、入居者様に対するサービス向上につながると考え、今後もこのような取り組みを積極的に行ってまいります。

ふれあいの里施設群にある奈良県福祉・介護事業所認証制度 認証事業所

【医療法人 健和会】

・奈良東病院
・ケアハウスふる里

・介護老人保健施設ならふくじゅ荘
・グループホームふれあい天理

【社会福祉法人 大和清寿会】

・介護老人福祉施設 清寿苑
・介護老人福祉施設 なら清寿苑
・グループホームなら清寿苑
・介護付有料老人ホームやまと

・ケアハウス清寿苑
・ケアハウスなら清寿苑
・ホームヘルプステーションなら清寿苑
以上11施設(順不同)

(企画室 室長 東川 直司)

異国文化を学び、共に過ごしやすい職場を目指して!



奈良東病院グループ多文化交流会開催!

奈良東病院グループでは、国際貢献と国際交流、職場の活性化のために、現在22名の外国人職員を受け入れております。

去る9月28日(金)、外国人職員同士の親睦および日本人職員との親睦を深めるため、日本人スタッフを含め約50名参加のもと多文化交流会を開催致しました。まず鉄村俊夫理事長の挨拶から始まり、会食へと移りました。会食中に外国人職員による自己紹介や誕生日を迎えた外国人職員へのサプライズとして誕生日ケーキでお祝いする等、会は大いに盛り上がりしました。

外国人職員との親睦を深めることもでき、最後に記念撮影をし、盛会のうちに終えることができました。



奈良東病院グループでの外国人職員の受け入れ状況(2018.12.4時点)

22名(男性1名、女性21名、平均年齢29歳)

□インドネシア人……………3名	□フィリピン人……………6名
EPA介護福祉士……………1名	EPA介護福祉士……………5名
EPA介護福祉士候補者…2名	EPA介護福祉士候補者…1名
□ベトナム人……………8名	□中国人……………5名
看護師……………2名	看護師……………4名
EPA介護福祉士候補者…2名	介護福祉士……………1名
EPA看護師候補者……………4名	

※EPAとは、Economic Partnership Agreementの略

物品やサービスの貿易のみならず、人の移動、知的財産権の保護、投資、ビジネス環境の整備、競争政策など様々な協力や幅広い分野での連携を促進し、二国間または多国間での親密な関係強化を目指す条約のこと。

※候補者とは、看護師または介護福祉士の国家試験に合格するため、介護職員として就労しながら勉強中の方。

(奈良東病院事務室 係長 藤川 晃吉)

“人生会議”という言葉をご存じですか?

先日、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)と呼ばれていた取り組みの愛称が「人生会議」と決まりました。

ACPとは、「将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者様を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、患者様の意思決定を支援する過程」とされています。

患者様が望む医療及びケアについて、その意思を確認できなくなる時がいつ訪れるのかを予測することは困難です。その一方で、終末期においても患者様の尊厳ある生き方を実現するた

めには、患者様の意思が尊重された医療及びケアを提供することが重要です。

また、患者様の意思を尊重した医療及びケアが実現することは、残されたご家族にとっても極めて重要な意味を持ちます。そのためには患者様が意思を伝えられる時から、その意思を共有しておくことが重要です。

「人生会議」という分かりやすい愛称ができたことで、是非身近に考えていただき、ご家族で話し合う機会にさせていただけたらと思います。

(特別養護老人ホーム清寿苑 苑長 橋本 光司)



笑顔満開の狂言披露!



ならふくじゅ荘デイケアでは、利用者様の「狂言を一度見てみたい!」というご要望から11月14日(水)、狂言師の方々をお招きし、狂言を演じていただきました。

デイケア利用者様の中に、京都の大蔵流茂山千五郎家社中の方と昔からのお知り合いの方がいらっしや、その方にご協力いただき、今回の狂言の催しが実現することとなりました。

狂言師の山下様主演で、柿の木の主が木に登って柿を盗み食いしていた山伏をからかう「柿山伏」を披露していただき、フロア中が笑顔に包まれました。



また利用者様、職員共に狂言を初めて見た方が多かったので、狂言を分かりやすく解説していただいたり、ワークショップという形で「笑う」「泣く」等の演技を体験させていただいたりもしました。

利用者様が「おもしろかった!笑わせてもらったわ!」とおっしゃったように、大きな声で笑う方、歓声をあげる方が多く、皆様大満足の行事となりました。

また演技体験をして狂言に興味を持った職員も多く、しばらく狂言ブームが続きそうです。

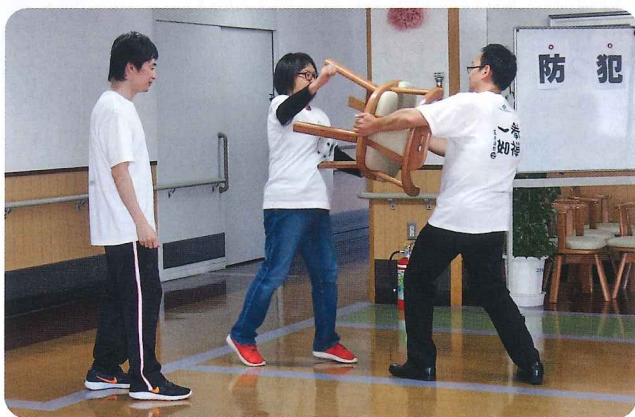
今回、初めて狂言を行事に採り入れて、見慣れたものだけではなく、新たなものを取り入れるのも大切だと感じました。今後も新たな行事を考え、利用者様の満足につなげていきたいと思えます。

最後になりますが、ご協力いただいた利用者様、狂言を演じていただいた皆様、本当にありがとうございました。

(介護老人保健施設ならふくじゅ荘

通所リハビリテーション 係長 松木 良治)

「防犯講習で護身術を学びました」



奈良東病院グループでは、日頃より患者様、利用者様に安全・安心な生活を送っていただくために、リスクマネジメント委員会(通称プロジェクトR)で、全体の事故分析・検証・啓発を行い、事故防止を図っております。

今回、その一環として、痴漢や不審者から身を守るため奈良県安全・安心まちづくり推進課長他2名を講師としてお招きし、防犯講習として「護身術」についてご指導いただきました。

痴漢行為等をする人は、駅等で物色して後をつけ、人気のないところに来て犯行に及ぶそうです。特に最近、イヤホンで音楽を聴いたり、スマホに集中したりしている人達が痴漢被害に遭っているそうです。この防止策としては夜道で不安を感じた時は、振り向いて後ろを確認するのが良いそうです。犯罪者は振り向かれると、「顔を見られた」と思い、犯行を断念するそうです。

しかし、いつ痴漢等の被害に遭うかは分からないので、いざという時のために「護身術」を教えていただくことになりましたので、その一部を紹介します。



【手を掴まれた場合の対応】

逆の手で「目打ち」(目のあたりをたたく仕草)をし、股間を蹴り、逃げる。これは、目の前で何かされると相手は不快に感じ戦闘意欲を失うからだそうです。

【後ろから抱きつかれた時の対応】

効果的なのは、相手の腕に噛みつくこと。更には自分のお尻を横にずらして手で相手の股間をたたくとひるむそうです。

次に施設への不審者侵入に備え「さすまた使用訓練」も行いました。しかし、さすまたで不審者を制圧するというのは力学的にも不利な場合があるので、実際にはさすまたは「威嚇」として使用するのが良いそうです。特に目に向かっての威嚇は効果があるとのことでした。

また、刃物等で襲ってきた場合で、さすまたがない時は、代替手段として、イスやモップ等を使用するのが効果的とのことでした。この訓練を受けた実感としては、イスの脚が迫って来るだけで相当な威圧感と恐怖心を感じたので、効果があると思いました。

今回の参加者の多くは女性でしたが、「とても勉強になった」「強くなれた気がする」「受講して良かった」との声が聞かれました。これからもグループ全体で定期的に防犯教室の開催等を行い、事故防止に取り組んでいきたいと思っております。

(プロジェクトR委員長 三瀬 結花)

エバーライフ香芝・エバーライフ加島・ひまわり加島 厨房リニューアル!!

～毎日楽しみ!美味しい食事を提供します!～

「“食”を楽しんでいただく」をコンセプトに介護付有料老人ホーム エバーライフ香芝・エバーライフ加島、デイサービスセンターひまわり加島において入居者様及び利用者様へより美味しい食事を提供するため、厨房をリニューアル致しました。

平成30年9月末に改修工事が終わり、10月1日より新しい厨房で調理した食事の提供を開始致しました。

各施設のリニューアルの大きなポイントはスチームコンベクションオーブンとフライヤー等の導入です。これまでは、すでに給食センターで調理されていたものを加熱カートで温めて提供していましたが、今回の改修を機に施設内にある厨房で一から調理し、提供できる体制に移行しました。これにより調理師が厨房に常駐することとなり、バラエティーあふれるメニューを提供できるようになりました。

食事は「目で楽しむ」というように、見た瞬間に「美味しそう」と感じていただくため、食器もこれまでのプラスチック製のものから陶器のものに変更し、毎回の食事を楽しみにしていただけるようにしました。

エバーライフ香芝とエバーライフ加島の入居者様からは食事が変わったことで、「おかずの品数が増えて嬉しい」、「以前より美味しいし見た目も良くなった」、「食事の時間が楽しみになった」、またご家族の方からも「入居している本人が喜んでいるの



でありがたい」等、たくさんの嬉しいお声をいただいております。

またエバーライフ加島の館内にあるひまわり加島では、デイサービス内にあるキッチンで調理し、カフェにきたような気分で昼食を召し上がっていただけるように努めています。施設内には、食事の時間が待ち遠しくなるほど良い匂いが立ち込めています。目の前で調理・盛り付けができるので作り立ての昼食を提供でき、利用者様には大変好評です。

見学会や体験利用の方々がお越しになられた時、渉外活動の時に食事についての質問を受けますが、今では食事についても自信を持ってお答えできるようになりました。今後もサービス向上を目指し、入居者様、利用者様とのコミュニケーションを深め、より良いものを提供できるように努めてまいります。

(ふれあいの里 広報委員会)

第12回

ふれあいの里 秋の作品展を開催しました。

たくさんのご出展ありがとうございました!

毎年11月に開催させていただいております秋の作品展。今年で12回目を迎えることとなりました。私自身、前年の秋の作品展ではアシスタントで参加させていただき、今回で2年目となります。

2年目の今回から本格的に担当させていただくことになりましたが、不慣れな事ばかりで、皆様にはご迷惑をお掛けしたのではないかと反省しております。

そんな中で、作品展への出展を楽しみにされている方や、作品を見るのを楽しみにされている方が多くいらっしゃる事に気づかされました。準備や展示等、大変な作業もありますが、楽しみにされている方々のお声をいただくことでご期待にお応えしようという活力になりました。

今回は、11施設から161作品をご出展いただきました。来年も多くの方々に出品いただき、皆様に楽しんでいただける秋の恒例行事にしていきたいと思っております。次回も宜しくお願い致します。皆様、本当にありがとうございました。

(奈良東病院事務室 係長 谷向 俊二)



編集後記

新年明けましておめでとうございます。2019年、平成は31年目を迎え、平成最後の年明けとなります。皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年を振り返りますと様々な出来事がありました。大雨や台風、地震等による自然災害は各地に甚大な被害をもたらし、普段から備えることの重要性を改めて思い知らされました。そのような災害のニュースが多く報道された2018年でしたが、明るいニュースもありました。11月に2025年の万博開催地が大阪に決定致しました。1970年以来55年ぶりの開催ということで話題となりました。2020年の東京オリンピック開催に続く世界規模での祭典となり、これから徐々に盛り上がっていくのではないのでしょうか。

さて、話題は身近なところに移りますが、今年も本格的にインフルエンザが流行する季節となりました。皆様方におかれましては手洗い、うがいを徹底していただき、予防に努めていただきますようお願い致します。

最後になりましたが、2019年が皆様にとってより良い1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(広報委員長 橋本 重之)

